

令和6年度 第1回 えちぜん鉄道活性化連携協議会 議事録

日 時： 令和7年3月10日（月） 14：00～15：30
場 所： 福井県織協ビル6階602号室
出席者： 別紙出席者名簿のとおり
資 料： 別紙資料のとおり

開会

1 会長挨拶（勝山市 水上市長）

2 議事

規約第8条第2項により、座長が会議の議長となって議事が進行された。

報告（1）乗車実績等について

えちぜん鉄道より資料説明（報告1資料参照）（えちぜん鉄道 佐々木取締役）

<質疑応答>

○委員

ICOCAの導入によって、より精緻に分析できるようになった事柄等があれば教えて欲しい。

○えちぜん鉄道

えちぜん鉄道におけるICOCAの利用率は現在2割強。システムの不具合によりICOCA利用者のデータの抽出が遅れていたこともあり、データの分析についてはこれから具体的に行っていきたい。また、観光利用のお客様が車内でICOCAからえちぜん鉄道の企画乗車券に切り替えるという事例が多くあり、そうした件数のデータから企画乗車券の周知方法やICOCA利用との兼ね合いについても分析していきたい。

○委員

バスの方では昨年にICOCAのデータ活用についての勉強会を開催しており、鉄道に関してもそういった動きが盛り上がっていけばと思う。例えばICOCAのIPデータまで踏み込んだ分析が進めば、バスの減便によって利用者が鉄道に移るなどの流れも分かるようになるが、そうでなくても統計的な情報が得られると思うので、期待したい。

○委員

令和6年の回数券の利用実績が令和元年・令和5年と比較しても減少している理由としては何が考えられるか。

○えちぜん鉄道

コロナ後の回数券の利用については減少傾向にある。ひとつの要因として、通学定期が増えているため、学生の定期券の利用が増えてきているのではないかと考えられる。また、一般の利用者の高齢化が進み、一人あたりの乗車回数が減少しているということもあると考えている。直近ではＩＣＯＣＡ利用の乗りやすさがあり、回数券を買わずにＩＣＯＣＡで乗車される方も一定数いると思われる。色々な要因がありひとつには絞れないが、今挙げたようなことが考えられる。全体に対する回数券の割合は13%程度から10%を切る程度に減少してきているため、今後の回数券の在り方については状況を見ながら検討していきたい。

○委員

フェニックス田原町ラインについてはほぼ伸びがない。自社線がこれだけ伸びている中で、なぜフェニックス田原町ラインは伸びがないのか。周知度が低下してきているのではないかと懸念があるがどうか。

○えちぜん鉄道

フェニックス田原町ラインについては、運行開始からずっと伸びてきていた路線。自社分析では、福井鉄道のダイヤ改正によって鷺塚針原駅まで直通で運行していた電車がすべて福井駅経由になり、速達性がなくなってしまったタイミングから利用実績が減少している。所要時間が延びたため、乗り換えてハピラインで行くという利用者も一定数いると思われ、その結果、フェニックス田原町ラインとしては減少となっていると考えている。鷺塚針原～たけふ方面行きの電車について、従来の福井駅を経由しない直通便を運行できないか、今後福井鉄道と協議をしていきたい。

○委員

運転士養成について、今現在の運転士の数、今後の運転士についての対応方針をお聞かせいただきたい。

○えちぜん鉄道

他の部局も同様だが、運転士についても欠員の状況が続いている。運転士見習3名が一人立ちし定員に近い数にはなっているが、次年度の退職予定者もいるため、定員に満たない状況が続く見通し。採用については、従来は地元採用を中心に行っていたが、現状として次年度以降の採用の見込みが立っていない状況であるため、中途採用も含め県外へ募集を広げて採用活動を行っている。

○委員

今の欠員の状況は。

○えちぜん鉄道

現在の欠員は2名で、次年度に退職者が出ると3名の欠員となる。

※他に意見がないことを確認し、報告（1）終了

報告（２）国への要望の実施について

事務局より資料説明（報告２資料参照）（福井市地域交通課 龍崎課長）

<質疑応答>

○委員

令和６年度の鉄道関係の補助事業について、要望の主要なものについては要望通り３分の１の補助をさせていただいているが、車両検査費については４分の１として査定を受けている。車両関係の補助事業の予算については、鉄道局ではなく観光庁の一般財源から支出されており、観光庁の予算が観光の方に振り分けられ、鉄道への支援が減少している。

令和７年度について、レール等の安全設備への補助については、補正予算により３分の１の支援を確保できる予定となっているが、車両への補助については支援をする予算がなく、支援ができない状況となっている。

車両検査は８年ごとに大規模な検査、４年経過時にも検査があり、必ず行う必要がある検査であること、車両検査費が必要な経費であることは承知をしている。予算確保の必要性をしっかりと国にも伝えていくため、ご理解をお願いしたい。

○委員

こういった要望は全国からあるのか。

○委員

自治体が支援をしている鉄道会社がいくつかあるため、そういったところは中部運輸局や本省に要望にいられている状況である。

※他に意見がないことを確認し、報告（２）終了

報告（３）えちぜん鉄道交通圏地域公共交通計画主要施策の進捗状況について

事務局より資料説明（報告３資料参照）（福井市地域交通課 龍崎課長）

<質疑応答>

○委員

カーフリーデーは今回で第１８回を数え、福井市社会福祉協議会や日本女子大学との連携を行い様々な企画を行った。資料の子どもたちが電車に乗って笑っている写真は「ちよい旅」というイベントで、地域鉄道の乗車を推進する目的でＲＯＢＡが企画している。参加者には地域鉄道に実際に乗車してもらい、途中の駅で地域の解説をしていくという取り組みになっている。

カーフリーデーは年に一回のイベントであり、１８回続いているが力不足を感じている。毎週金曜日のカーセーブデー等について、行政の方でも連携してアピールする形でモビリテ

ィ・マネジメントの推進を図っていただきたい。

○委員

確かに、カーセーブデーという言葉については最近あまり聞かなくなったという印象はある。今一度連携してモビリティ・マネジメントの推進を強化していきたいということかと思う。具体的なイベントのご相談などあればお声がけいただければと思う。

○委員

報告の中で自動運転の話も出ていたが、永平寺町さんはご意見いかがか。

○委員

国土交通省の補助事業を活用させていただき、自動運転車両にモニターを搭載し、映像を見ながら移動できるように整備している。併せて、えちぜん鉄道から自動運転バスに乗るまでのアクセスを記載したリーフレットも作成し周知している。映像サービスの方は来年度以降も福井県の事業を活用しながら実装していく計画である。えちぜん鉄道とも連携しながら誘客に繋がっていけばと思っているため、皆様にもぜひご乗車いただきご意見をいただきたい。

○委員

路線の延伸についてはいかがか。

○委員

議論はしているところであり、片道3～40分かかる乗車時間をただ乗っているだけではもたないという課題がある。今回の映像コンテンツのサービスがあれば乗車の時間が退屈ではなくなるだろうという思いもあり、今年度の取り組みをきっかけに拡大・延伸に繋がっていけばと考えている。

○委員

事例の紹介になるが、福井運輸支局では、バス・電車にＩＣカードの利用が導入されたことに伴って、社内でのＩＣカードの貸出の仕組みを作っている。他自治体など様々なところで行っている取り組みになるので、参考にいただければと思う。

また、運賃について、長距離区間の運賃を値上げするのは現実的ではないと思うが、福井市内の200～300円程度の区間について若干の値上げをするのはどうか。福井中心部などを見るとバスと鉄道の間で、同様の区間でも少しずつ金額の差がある。増収策及び分かりやすい運賃体系ということで金額を合わせていくというのも一つの策かと思う。その場合、公共交通事業者同士の話し合いではなく、誰かがイニシアチブを取って促していくというやり方も一考に値するのではないかと思う。要望という形で意見させていただく。

○委員

ＩＣカード貸出について、自治体の方でそういった取り組みをされているところはあるか。

○事務局

福井市では、以前までは回数券の利用が主だったが、現在はＩＣカードの普及が進んでいる。ＩＣカードでバス・鉄道両方に乗車でき、乗り継ぎの場合なども利便性が高い。福井市

内のみならず市外への移動の際にも利用できるとして貸し出している。

○委員

他の市町はどうか。

○委員

そうした事業は現在行っていないが、当市でも検討していきたい。

○委員

サイクルトレインについて、令和7年度の予定はあるか。

○えちぜん鉄道

社内でも検討したが、特に勝山永平寺線の利用が増えている中で自転車を車内に持ち込むことの危険性もあり、令和7年度も見送る予定である。

○委員

車両が足りないということか。

○えちぜん鉄道

車両が足りないというよりは、2両編成で運行しても特に土日の利用者が多く、車内が大変混雑する。その中での自転車の積み込みとなると、積み込めないことはないと思うが、お客様のお怪我などの恐れもあると考えると難しいというところである。

※他に意見がないことを確認し、報告（3） 終了。

その他

○委員

先日のえちぜん鉄道の脱線事故については、福井県及び沿線市町の支援により、予定よりかなり早く復旧が進んでいるということである。運輸局としてもこの場をお借りしてお礼申し上げます。まずは復旧だが、同様の事故が起きないような対策、再発防止策も非常に重要である。安全確保の上で斜面の確認等の対策も引き続き必要となるため、県及び沿線市町の皆様には併せてご支援をお願いしたい。運輸局の方で直接支援ができる事業はないが、様々な面で助言等させていただくことも可能なのでご相談いただければと思う。

また、北陸新幹線福井開業からまもなく1年となり、100年に一度とも言われる地域を挙げた事業によって、観光客だけでなく地元の方々のまちなか回遊が増え、地域の活性化が非常に進んだのではないかと考えている。特にこの年末年始は新幹線の利用が大変好調で、前年比140%となっている。このように多くの方が福井県に来訪され、各新幹線駅からの移動手段として二次交通が非常に重要になっている。シームレスに動くためにはキャッシュレスなどの利便性の良さ、段差解消による移動のしやすさ、ピクト表示や多言語表示で外国の方でも目的地が分かりやすくする取り組みといったことが利用者から評価される項目である。

利便性向上面では昨年10月から交通系ＩＣカードを導入いただき、運輸局としても支援をさせていただいた。福井県は宿泊のインバウンド客が少ない状況なので、今後はさらにインバウンド対応のための策として、クレジットカードのタッチ決済の拡大についてもご検討いただければと思う。

ただ、このような取り組みの前に鉄道の安全確保を何よりも優先すべきである。えちぜん鉄道様には国・県等の支援を受けて施設の修繕や更新を進めていただいております、まずはお礼を申し上げたい。今後も安全最優先で対策を進めていただきたい。

安全の向上という点では、昨年4月に上信電鉄の方で第4種踏切において小学4年生の女の子が亡くなったという事件を受けて、本省としても第4種踏切をなくするという取り組みに力を入れている。基本的には第1種にするか廃止にすることが目的だが、地域の使用状況等により対応が難しい踏切については、簡易の踏切接続や掲示板・警報の設置などの支援ができるような新しいメニューができた。えちぜん鉄道においては第4種踏切が23箇所残っており、利用する方の高齢化等により危険性も高まっていく。地域の皆様にはしっかり認識いただき対策を進めていただく必要があるため、ぜひともご理解とご協力をいただきたい。

昨年、地域公共交通の法律が変わり改正地域交通法が施行され、自治体・関係者・鉄道事業者によって利用促進や持続可能な鉄道について日頃取り組みを進めていただいている。国としても一生懸命取り組みをされているところへ支援をしていこうと考えているため、引き続きよろしくお願ひしたい。運輸局としても様々な場面でお手伝いをさせていただきたいと思っている。

○委員

以前の協議会の中でも第4種踏切の話が出ていたかと思う。えちぜん鉄道では注意喚起板を付けているということだが、その後何か対策は進んでいるか。

○えちぜん鉄道

第4種踏切に関しては掲示板の設置を進めている。現在ＪＲ西日本と協議し、2箇所ほど新たに設置を検討している。我々としても第4種踏切をなくしたい思いではあるが、地元の方々との交渉となると交渉が長期化することなどもありハードルは高い。地道に取り組んでいきたいと思う。

○えちぜん鉄道

会議を通じて様々なアドバイスをいただきお礼申し上げます。ご意見を受けて一步一步改善に向けて努力していきたい。脱線事故に対する再発防止策についても、各関係機関と協議をする中で実施可能な方法が決まってくるかと思うので、その際には国の方にも色々ご相談させていただきたい。

今年の実績については、新幹線開業効果もあり、非日常利用者については前年比27.3%、コロナ前との比較でも7.4%の増加ということで我々の期待していた効果が出ていると思っている。この効果をいかに継続していくかというのが非常に重要である。勿論えちぜん鉄道の方で様々な企画を出して利用していただくことも大事であり、先程お話があったインバウ

ンド需要への対応も視野に入れて、今後の利用客増の方策として検討していくことも大事であると考えている。

また、昨年、日本モビリティ・マネジメント会議に参加させていただいた際、福井県では車の利用が多く、電車に乗ったことがないという意見も多く見受けられた。電車に乗るきっかけをどのように作るかということを行政とも協議をしながら、人口減少の中で公共交通に目を向けていただくための取り組みを行っていききたい。

○委員

観光需要の伸びに非常に期待がある中で、勝山市の恐竜博物館についてはこれまでの年間最高来場者数から3割以上増加して125万人ほどの見込みとなっている。そういった中で考えるとえち鉄の非日常利用の伸びに十分に跳ね返っていない部分があると言えるし、逆にまだまだ伸びしろがあるとも言える。地域の移動手段としての公共交通機関をしっかりと存続していくために、非日常利用を利用しやすくしていくということが鍵である。利用に支障をきたさないような形でサイクルトレインなどの活用をすることで魅力向上に繋がるのではと思う。整備され美しくなった福井駅周辺や両沿線をしっかりと活用しながら、えちぜん鉄道をいつまでも守っていききたいと考えている。皆様にもご支援をお願いしたい。

※他に意見がないことを確認し、その他 終了。

閉会